

□議員名：恒松 恵子

1 本市の教育行政の取組について

論点	今春の児童生徒におけるコロナ感染増加時、学校教育は大きく影響を受けたと思われるが、どのように対応したのか。
回答	教育委員会として、市内の感染状況を注視しながら各学校長と緊密に連絡を取り合い、日々変わる感染状況のもとにまん延防止に努めた。また、子供たちの学びが止まらないよう各学校に合わせた支援を行っている。

論点	子供たちのマスクについて、どのような方針を取っているか。
回答	体育の授業では外す、登下校では一定の距離を取っているという条件においてはマスクを外しても良いなど熱中症に配慮しながら国の指針に準じて行っている。

論点	マスクが子供たちに与える影響についてどのように考えているか。
回答	教室では熱中症の危険度を表す温度計を設置し、水分の補給などについて指導している。マスクによってコミュニケーションを取る不便さは感じているが、教師はプロであるため上手く意思疎通を図りながら子供たちと信頼関係を築いている。

論点	コロナ感染で休んだ児童生徒に対して、十分な配慮がなされているか。
回答	タブレットを使用して学級活動を行うとともに担任とオンラインで対話の機会を設けている。また、いじめにつながらないような通知を出すとともに不安を軽減するために心の支援室の指導員を各学校に派遣した。どの学校においても実施できるよう環境整備に努めている。

論点	G I G Aスクールは順調に進んでいると思われるが、学校や教諭によって習熟度に差が出ないように、市はどのように取り組んでいるか。
回答	タブレット端末を使った授業は自分のためになっているかというアンケートでの肯定率は95%以上である。学校間格差や教員間格差の改善に向けては、G I G Aスクールサポーターを配置して指導と支援に努めている。また各校の好事例や授業での効果的な活用方法について共有を進めている。

論点	I C Tスキルの指標があるが、取り残された子供はいないのか、また習熟度は達成されているのか。
回答	格差の改善に向けて発達段階における I C Tスキルを設定した。一定のスキルはどの学校でもどの児童生徒でも身に付けることができるよう配慮している。今後はこのスキルが子供たちに定着しているかという評価をしていく。

論点	新1年生についてタブレットの使用に差が出ないように、どのような工夫をしているか。
回答	子供たちは想像以上に順応性があるが、基本操作を確実に習得できるよう G I G Aスクールサポーターの支援を行っている。また参観日には保護者と一緒にタブレット学習を行い、家庭での円滑な使用につなげている。

## 2 J Rの利用促進について

論点	J Rが赤字路線を公開し、廃線に不安を持つ市民が多くいるが、市はどのように対応するのか。
回答	小野田線は欠かすことのできない市民の交通基盤であり、美祢線は山陽と山陰をつなぎ、山陽新幹線と接続する重要路線である。これまでも利用の促進に努めてきたが、今後は県や沿線3市とさらなる連携体制を構築し、国に対して持続可能な地域公共交通を実現するよう強く求めていく。

論点	J R小野田線、J R美祢線の利用促進についてどのような取組をしていくのか。
回答	沿線の市や商工、観光団体と連携した利用促進協議会などの推進組織を設置している。本年度はどちらも事業費を大幅に増額し、お笑い列車やスタンプラリー、ラッピングプロジェクトなど積極的なイベントを展開していく。

論点	沿線の各駅にある地域の宝を披露したり、列車を利用する若い世代にアイデアをもらったりして利用促進につなげられないか。
回答	さらなる企画にチャレンジする必要がある。シティセールスの部分にも係ることであり、様々な可能性を持って、こういった形で利用促進につながるか

考えていく。